

「リカレント教育とリスキリング」

人材育成に関するキーワードとして、最近では「リカレント教育」と「リスキリング」の2つを目にする機会が多くなっています。

今回はこの「リカレント教育とリスキリング」について説明します。

1. リカレント教育とリスキリングの違い

リカレント (recurrent) は英語で「繰り返す」「循環する」を意味し、リカレント教育とは学校教育から離れた現役の社会人が、必要なタイミングで仕事と教育を周期的に繰り返す仕組みです。文化活動や趣味などを学ぶ「生涯学習」と違い、リカレント教育は仕事に関して学び直しする点が特徴となります。

リスキリング (reskilling) は英語で「職業能力の再開発・再教育」を意味し、環境変化への適応に必要なスキルを新たに習得することを言います。

リカレント教育もリスキリングも、社会人の学び直しという点で共通していますが、大きな違いは、企業と個人のどちらが主体であるか、職務を離れるか否かの2点です。リカレント教育では個人が主体となり、一旦仕事を離れ大学などの外部機関で自分のライフスタイルにあった新たなスキル習得に集中するのに対し、リスキリングでは企業が主体となり、従業員が働きながら企業にとって必要となる新たなスキル習得を目指します。

	リカレント教育	リスキリング
主 体	個人が主体	企業が主体
目指すスキル	個人のライフスタイルに合ったスキル	企業に必要なスキル
取組方法	仕事を離れ学びに専念	働きながら習得

2. 注目される背景と現状

高齢化や働き方改革に伴い、定年退職後の新たな挑戦や子育てと仕事の両立など、多様なライフスタイルへの変化に応じて学び直しを繰り返す「マルチステージ型」へとライフステージが変化しつつあります。また、IT や AI などの急速な情報技術革新に伴い、DX (デジタル・トランスフォーメーション) の推進に対応できる「デジタル人材」不足が様々な分野で課題となっており、時代が求める新たな専門能力を身に付けるためにリカレント教育やリスキリングが注目されています。

リカレント教育は、現状では転職や起業などのキャリアアップ、求職者・失業者の職業訓練など個人単位の学びが中心となっています。この主な理由として、従業員が一定期間職務を離れるため、企業側のサポート体制が不十分であることが挙げられます。一方で、従業員が働きながら学ぶリスキリングは企業にとって導入のハードルが低く、DX 推進にかかるデジタル人材の育成などで採用する企業が増えており、日本においてはリスキリングが学び直しの主流になっていくことが予想されます。

3. 今後の推進に向けて

世界的に情報技術の革新が進む中、日本企業が取り残されず企業価値を高めていくためには未来を担う人材の育成が必須と言えますが、急速な社会変化への対応が必要であり、学生だけではなく現役世代の社会人もスキルアップが重要となります。

リカレント教育やリスキリングを推進していく上で、業務効率化・生産性向上・優秀な従業員の育成などのメリットをもたらす学び直しの重要性について、企業や個人の意識改革が求められます。

また、政府では学ぶ意欲がある人に対し「教育訓練給付金」「人材開発支援助成金」などの支援を実施していますが、より充実した支援策などの環境整備も必要と考えられます。

閑話ひとつ

- ▶ 立春過ぎとはいえまだ厳しい寒さが残る2月11日、白河のまちは伝統行事「白河だるま市」の賑わいに包まれる。カギ型の形態を残した旧奥州街道の市内目抜き通りの両側にたくさんの露店が立ち並び、まち全体が活気を見せる。県南地方に春を告げる風物詩がまちを彩る。
- ▶ 子どもの頃の記憶が蘇る。露店で目を輝かせて求めたりんご飴。姫りんごを竹串に刺した形状、鮮やかな紅色、飴の甘さが一年に一回という物語性と相俟って今も強く印象に残っている。縁起物の白河だるまは小さなものから買い始めて毎年少しずつ大きなものにしていくと末広がりで運氣も開けると言う。
- ▶ その白河だるま市が2年ぶりに開催される予定だ。だるまは、願い事が決まったら墨で左目を入れる。願い事が叶ったら右目を入れる。家内安全、商売繁盛、合格祈願、訪れた多くの人がそれぞれの願い事を揮ごうしてもらい、今年一年の安寧と活躍を期することだろう。平穏な日々があってこそその願い事だと改めて思う。ご当地ヒーロー・ダルライザーとともに、収束祈願に右目が入ることを切に願う。(HS)